

保護者様

東京都立武蔵高等学校  
東京都立武蔵高等学校附属中学校

学校保健安全法施行規則により「学校において予防すべき感染症」には出席停止の期間が定められています。この期間は学校内での感染拡大を防ぐため、罹患した生徒が登校できない期間です（出席停止期間は欠席扱いにはなりません）。

別表にある感染症の可能性があつて欠席させる場合には、授業開始時間前に学校へ連絡してください。また、診断の結果についても速やかに連絡をお願いします。

医師の指示により他へ感染させるおそれなくなり登校を再開する際には、以下の「学校感染症による出席停止届」を担任へご提出ください。

- \* 医療機関を受診したうえで感染症もしくはその疑いであると診断された場合に出席停止となります。
- \* 疾病の状況により医師の証明書を提出していただく場合があります。

---

## 学校感染症による出席停止届

東京都立武蔵高等学校長殿  
附属中学校長殿

\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_組 \_\_\_\_\_番 氏名 \_\_\_\_\_

下記の疾患について \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日（\_\_\_\_\_）に医師の診断を受けました。

このため \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日（\_\_\_\_\_） \_\_\_\_\_限から \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日（\_\_\_\_\_） \_\_\_\_\_限まで療養させていましたが、登校を再開させますので連絡いたします。

記

疾患名： \_\_\_\_\_

受診した医療機関名： \_\_\_\_\_

医療機関の電話番号： \_\_\_\_\_

令和 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日

保護者氏名 \_\_\_\_\_ 印

## 学校において予防すべき感染症の種類と出席停止期間の基準

(学校保健安全法施行規則第18条)

分類	病気の種類	出席停止の期間
第一種感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘瘡南米出血熱、ペスト、マールブルグ熱、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がSARSコロナウィルスであるものに限る）、中東呼吸器症候群（病原体がMERSコロナウィルスであるものに限る）、特定鳥インフルエンザ 法律に規定する、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症。	治癒するまで
第二種感染症	インフルエンザ (特定鳥インフルエンザを除く)	発症した後5日を経過し、かつ、解熱後2日（幼児にあつては、3日）を経過するまで解熱後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹（はしか）	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺又は舌下線の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風疹（3日ばしか）	発疹が消失するまで
	水痘（みずぼうそう）	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱（プール熱）	主要症状が消退した後2日を経過するまで
	結核	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
第三種感染症	髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症 (条件によっては出席停止の措置が考えられる疾患)	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
	溶連菌感染症、ウィルス性肝炎、手足口病 伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ感染症、感染性胃腸炎など	全身状態が悪いなど、医師の判断で出席停止を要する場合など

\* 通常、出席停止の措置は必要ないと考えられる感染症の例：

アタマジラミ、水いぼ、伝染性膿痂疹（とびひ）